

# 令和6年度 富士市 指導の重点

富士市教育委員会学校教育課

ふじの教育  
基本方針

「一緒に学ぶ 一生学ぶ」

目指す子ども像

学びを創る子 未来を拓く子



目指す授業像

みんなが  
学びの  
主人公

「見取り」を生かし、  
仕掛ける

「学びの実感」  
を次へつなぐ

個別最適  
な学び

協働的  
な学び

「子どもと教材をつむぐ」  
単元を構想する

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきている中で、子どもたちの資質・能力を確実に育成する必要があります。子どもたちを支える伴走者でもある教師には、ICTを効果的に活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、子どもたちの資質・能力を育成することが求められています。

新しい時代に必要な資質・能力を育成するためには、たての接続である小中一貫教育で、教職員の協働による一貫性・連続性のある支援を実施することや、よこの連携であるコミュニティ・スクールの特色を最大限に生かすことで、教育の質の向上を図っていくことが大切です。そして、みんなで未来を拓く子どもたちを育てていきましょう。

## みんなが学びの主人公となるために

「みんなが学びの主人公となる授業」とは、一人一人が自分ごととして課題に向き合い、自分らしさを発揮しながら、課題解決に向かう授業です。

そのために、教師が授業において大切にしたいことを三つの柱に整理しました。

### 「子どもと教材をつむぐ」単元を構想する

単元を構想することは、子どもの思いや願いと教材の価値を教師の関わりや支援でつむいでいくことです。子どもたちが、夢中になって思いや願いを実現しようと学びを楽しむことが、資質・能力を育むことにつながるような単元を構想しましょう。

- 学習指導要領に示された、育成を目指す資質・能力を十分に理解しましょう。
- 学びの足跡や子どもの実態を踏まえた教材分析をしましょう。
- 子どもがどんな願いや考えを持つか、どこにつまずくか等、**学んでいく子どもの姿を、子どもの言葉で想像**してみましよう。
- どの子どもが学びの主人公になれるように子ども一人一人の実態に合わせた**自己決定の場**を設定しましょう。

### 「見取り」を生かし、仕掛ける

子どもたちが授業中に見せる表情、しぐさ、つぶやき等の表れには、疑問や願いが込められています。その多様な表れを見取り、子どもの思考の様子や変化を感じ取り、教科等の目標に迫る仕掛けをしましょう。教師の仕掛けにより、子どもの思考に弾みがつき、深化します。

見取りと仕掛けは、子どもを学びの中心に置き、学びの楽しさや学ぶことのよさを味わうための鍵となります。

- 子ども一人一人の思いや考え、背景、学習集団の傾向などを捉えておきましょう。
- 目標に対する子どもの現在地を、常に子どもの姿、思考から追い続け**ましょう。
- 情報を提供する、ずれを生かす、問い返す、待つ等、具体的に仕掛けましょう。

### 「学びの実感」を次へつなぐ

子ども自身が「できそうだ」「分かってきた」「納得した」を積み重ね、自己の学習活動を見つめ直すことで「**学びの実感**」を得ることができます。そのためにも、単元を通して、「何が分かるようになったか」「どのような考えの変容があったか」「もっと考えたいことは何か」「どんなことに生かせそうか」などについて、**子どもが自覚**できるようにしていくことが大切です。こうした学びの繰り返しにより、**生涯に渡って学び続ける力**が身に付いていきます。

- 子どもが自らの学習を調整し、粘り強く学習に取り組むことができるような場を設定しましょう。
- 子どもが自分の言葉でまとめること、学習過程で生まれた疑問や気づきを振り返ることを適切に行いましょう。
- 子どもの学びを支え、次につながる前向きな声掛けや関わりをしていきましょう。